

叛旗派小史 (付録)

八前々史

一九五八 共産主義者同盟結成(第一次ブンド)
安保闘争。総括をめぐりブンドは革通派、戦旗派、プロ通派へ分裂。

六一 革通派解体。戦旗派革共同へ吸収。プロ通派幹部革共同へ移行、プロ通派解散。関西ブンド結成。(社会学同解散、マル学同結成)
六六 社学同全国結成大会準備会・S E C T 6 発刊。
共産同再建六大会(第二次ブンド)。三派全学連結成。

六七 10・8 羽田、11・12 羽田闘争
六八 エンブラ、王子野戦病院、三里塚闘争。中大学費闘争(完全勝利)。

共産同七大会(マル戦派分裂)、地区党路線採用。

八前史

六八

共産同三多摩地区再建。兵器生産輸送阻止実行委三多摩学生行動委(準)結成。
細谷火工闘争(三多摩から死の商人を追放せよ!)
米軍タンク車輸送阻止闘争(拜島、新宿、昭島)。カルチェラタン。三派全学連分裂。

5 日大、東大等全国学園闘争。10・21 防衛庁闘争。理論誌「叛旗」(共産同三多摩地区委)創刊
六九 東大安田講堂決戦
七〇 砂川反戦塹壕建設(米兵ピストル発射事件) 沖繩闘争。アスパック。大管法闘争。

4 共産同より赤軍派分裂。全国全共斗結成。
敗北後、叛旗派「戦闘団」結成。情況派脱落。
七〇年安保決戦(佐藤訪米阻止)

10 六九年秋期闘争総括をめぐり共産同内論争激化。情況派、七中委欠席、分裂。「叛旗」4号アピール
11 「七〇年代をわがものとするために党内闘争を断乎として推し進めよ」

七〇

八叛旗派結成

6 共産同政治集会(豊島公会堂)、相互発言をめぐり
11 叛旗派と戦旗派に分裂。

7 17

首都労学政治集会(中野公会堂)、大衆的に叛旗派登場。
「八党一大衆」構造の止揚へ。基調・神津陽、発言・吉本隆明

12 17

共産同政治集会(牛込公会堂)
「戦闘宣言から戦闘へ」基調・三上治
入管法、戦場、学園闘争。他方、あらゆる場所で、戦旗派との分派、党派闘争激化。

七一

共産同機関紙「叛旗」創刊(2P、半月刊、部30円)
三里塚現地闘争(一次、五名起訴)
戦旗派との全面的党派闘争
砂川闘争(砂川反戦塹壕前)

6 15

共産同政治集会(豊島公会堂)
「八かくめい」に向う綱領「戦略の創出へ」基調・三上治、発言・島寛征(三里塚)、下野順一郎(砂川)、吉本隆明。
中大・学館解放闘争一五〇〇名決起
沖繩返還協定調印実力阻止闘争(青山通りでバリケード戦)

8 29

三里塚農民放送塔強制収用実力阻止(五次起訴)共青同(準)夏季合宿
砂川・反戦放送塔の建設、完成。
三里塚第二次強制収用粉砕闘争(逮捕一九起訴)立川闘争(反戦塹壕前)
麻生学園闘争勝利・山内退陣。
沖繩返還協定批准阻止闘争(起訴者一三名出す)

10 17

共産同政治集会(中野公会堂)
「学費・沖繩・三里塚・砂川」
学費・学園闘争の勝利に向けて全都共闘会議結成(代々木区民センター)
沖・三・砂闘争で明け暮れる。
中大・法大・理大・青学・明学等で学費闘争。

7 26

権力の9・16、11・19事後弾圧に抗し赤燈社を建設。
共産同関西政治集会(大阪・桜の宮公会堂)
共産同沖繩討論集会(中野公会堂)
基調・神津陽、発言・吉本隆明、上原生男、金城朝夫。

5 15

沖繩闘争
立川自衛隊進駐阻止闘争(砂川反戦広場)
沖繩・三里塚弾圧粉砕集会(代々木八幡)、9・闘争救援会、11・19 闘争救援会共催。
自衛隊沖繩派兵阻止北熊本(横田)現地闘争。
反帝戦線首都圏労働者集会(教育社、弘済会、光文社、テック、ニチパン等報告、発言・藤田若雄)

9 10

相模原・米軍戦車輸送阻止闘争(このころ一連の反基地闘争続く)
三里塚を闘う人民大集会(日比谷公会堂)
反戦基地自衛隊中央闘争(宮下公園)
共産同政治集会(両国公会堂)
共産同関西政治集会(大阪・農林会館)
「八民族」国家「世界」空間を破壊し世界プロ独へ

11 16

三里塚9・16東峰十字路闘争第一回公判(千葉地裁)自衛隊立川進駐阻止闘争
竜谷、松商大、早大、慶応・日吉、学習院、青学、中大等で学園闘争激化。

12 12

光文社闘争一〇〇〇日突破、故喜入氏一周忌闘争。朝霞、横須賀連統現地闘争。
東峰十字路闘争第二回公判(機動隊導入される)早大闘争をめぐり革マル派との党派闘争激化
反インフレ闘争連続的に展開す
物価高騰阻止インフレ粉砕第一波闘争(新富町区民館)

4 20

反インフレ第二波闘争(宮下公園)
三里塚反対同盟幹部会、木の根叛旗派現闘の排斥処分決議(戸村参院選出馬批判を理由とする)、拒否。
共産同関西政治集会(中之公会堂)
独占資本中核包圍攻撃闘争(常盤橋公園)
メーデー祭典化粉砕闘争(宮下公園)
刑法改悪粉砕集会(赤燈社主催)
対関西電力料金値上げ阻止大衆団交
首都圏反インフレ行動委連合結成準備大会(牛込公会堂)

4 7

東西反インフレ行動
首都圏・坂本町公園、関西・北浜攻撃闘争、中之島公園
全国反帝戦線大会(立教大)、機関誌「呐喊」創刊
共産同政治集会(日比谷公会堂)
「インフレ」生活価値破壊へ、日常圏から反撃せよ

5 18

基調・神津陽、発言・吉本隆明
「煉獄の炎」刊(赤燈社)
夏期公開理論講座(5回)行なわれる。
「米審粉砕」闘争
全都反インフレ討論会(千駄ヶ谷区民会館)
消費者米価値上粉砕、米審阻止闘争(農林省九段分室)
刑法改悪阻止公開連続シンポ(第一回)、11・13(第二回)

6 15

9 4

7 20

10 5

5・13
5・14
5・15
6・1
6・4
6・14
6・15
7・11
7・16
8・25、26
10・21
10
11・19
12

主権・刑法改悪阻止闘争委(準)
三菱商事突入闘争
全国反帝戦線大会(電通大)
立川闘争(反戦聖壇前)
沖繩闘争(神宮通り公園)
三上治下獄(68・4・28沖繩闘争判決、実刑一年六月)
早大闘争、WAC、叛旗、解放派で革マルを完全撃破。
早大闘争(叛旗派六四名逮捕)
全関西総決起集会(三条河原)
共産同政治集会(武蔵野公会堂)
「民衆の自発的・内発的共同性を開削し、政治的構想力へ架橋せよ」
商品投機、物価騰貴策動粉砕首都圏総決起集会(初台市民会館)
全国反帝戦線大会(杉並産業館)
早大・インフレ闘争勝利、基地・自衛隊闘争勝利10・21闘争
東京(一ツ木公園)大阪(大阪市労働会館)
原子力発電所阻止伊方現地連続闘争(愛媛)
WAC単独で早大図書館突入
津田雄一郎(九・一六三里塚被告)宇高連絡船より投身自殺
愛媛、高崎、弘前、岐阜等で学園、党派闘争激化。

6・30
7・1
7・5
7・14
7・23
8・23、24
9・24
10・15
10・30
11・1
11・15
12・12
12・13
12・14
七六
2・7、8
2・15
2・21
3・3
4・3
4・28
5・13
5・15
6・15
7・8
7・18
9・5

理論誌「叛旗」10号発行。(三上治と他執筆者の強調点にズレ拡大)
共産同政治集会(大田区民センター)
「戦後革命運動の転生の指標は何か」基調・立花薫、発言・三上治
共産同関西政治集会(中之島公会堂)
基調・佐藤哲、発言・神津陽
第一回自治体労働者経験交流集会(自治体労働者実行委)
第一回教育労働者経験交流集会(教育労働者集会実行委)
全国反帝戦線大会(電通大)
共産同大会(三上治、政治活動停止・沈黙宣言)
叛旗誌97号、同盟内論争(三上離脱)を公開。
叛旗誌「特別号」(同盟内論争の結果と展望)発行
首都圏反帝戦線集会(代々木八幡区民会館)
教労研討論集会(主催・教労研)
共産同政治集会(牛込公会堂)「政治帯域の変容と階級判断の確定へ向けて」基調・立花薫、発言・神津陽
全国反帝戦線代表者会議
自治体労働者研集会、自治体パンフ発行。
機関紙「叛旗」一〇四号よりタブロイド版へ移行。
共産同冬季合宿
労働講座実行委結成
第一回労働講座「戦後労働運動と官公労、民間、未組織労働者」発言・高島喜久男他。
第二回「産業構造と賃金、雇用問題」
第三回「家族、職場、組合編成と政治帯域」発言・吉川進吾他。
第四回「高齢者、青年、婦人問題の根底」
共産同首都圏総会(労働講座評価をめぐり批判意見顕在化)
第五回「階級構成と当面の政治判断」発言・神津陽。
共産同政治集会(武蔵野公会堂)
「革命はここに、そしてロッキードの彼方へ」
基調・坂田正彦、発言・神津陽。「吶喊」5号刊行。
闘争通信「吶喊」連続発行。
三上治個人集会へ「政治的介入」
機関紙「叛旗」113号にて「総合誌」(仮称、「架橋」)発行問題提起。
各地区、共産同、反帝戦線合宿
共産同大会(沢田、6・18行動へ疑問呈示)
機関紙「叛旗」116号をもって事実上休刊。

9・26
10・9
10・24
11・13
12・19
12
七七
1・22
5・4
5・17
5・20
6・11

共産同中央委員会(組織統括機能停止)
共産同首都圏総会(立花、心的分派を表明)
共産同大会(組織体としての同盟、事実上解体)
立花薫個人集会
「叛旗」政治集会 主催・叛旗派八解体VII再生委(準) 全出席者で叛旗派解体合意
「叛旗」紙休刊のおわびとお知らせ。(編集局) 謹告。(菅原、福井)
共産同合同会議。12・17合意を提起、了承。
旧「叛旗派」財政残金は、全て赤燈社(被告団)管理へ。
71・11・19沖繩闘争高裁判決。柳、竹内、大野ら執行猶予。高橋克行実刑三年六月。
三里塚東峰十字路闘争第45回公判
東山薫虐殺抗議で開廷不能
高橋克行下獄
『八解体V解体』刊行。叛旗派八解体V作業完了。
(機関紙・誌類を参考に主要なもののみ掲載した)
註①本小史は「八解体V解体」よりの転載である。
②八解体V後七九年一月までに、全国各地で、論集「八解体V以降」、同人誌「最後の場所」、「越境」、個人誌「架橋」、「奔流」、「いいたしつ通信」、「燎火」、回覧誌「月曜会誌」等が発行されている。
③71・9・16東峰闘争裁判を頂点に三里塚関係の三裁判は現在も続行中である。